

令和4年度 第3回 江別市スポーツ推進審議会

日時:令和5年2月20日(月)14時30分～

場所:江別市教育庁舎 1階大会議室

- 次 第 -

- 1 開会
- 2 教育部長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 第7期江別市スポーツ推進計画の策定に係る諮問
- 5 審議事項
 - (1)第7期江別市スポーツ推進計画における施策体系(案)について
- 6 報告事項
 - (1)令和4年度青少年スポーツ賞・スポーツ奨励賞・教育委員会賞について
 - (2)令和5年度スポーツ関係予算について
- 7 その他
- 8 閉会

第7期江別市スポーツ推進計画における施策体系（案）について

第7期施策体系案作成にあたっての基本的な考え方

1 「国」や「北海道」の動向

令和4年3月に策定された国の「第3期スポーツ基本計画」と令和5年度中に策定予定である道の「第3期北海道スポーツ推進計画」の動向にも注視しながら策定するものとする。

2 「第7次江別市総合計画」との整合性

第7次江別市総合計画のまちづくり政策分野07「生涯学習・文化・スポーツ」の基本方針03「市民スポーツ活動の充実」との整合を図り、その個別計画としてより具体的な基本方向と施策項目を設定し、策定するものとする。

3 関連計画等との整合性

- ・ 江別市教育大綱
- ・ 江別市学校教育基本計画
- ・ 江別市社会教育総合計画
- ・ えべつ市民健康づくりプラン21
- ・ 江別市男女共同参画基本計画
- ・ 障がい者支援・えべつ21プラン
- ・ 江別市スポーツ施設長寿命化計画
- ・ 江別市公園施設長寿命化計画

以上の関連計画等との整合性を図りながら策定するものとする。



第3期スポーツ基本計画（概要）

【第2期計画期間中の総括】

- ① **新型コロナウイルス感染症：**
 - ▶ 感染拡大により、スポーツ活動が制限
- ② **東京オリンピック・パラリンピック競技大会：**
 - ▶ 1年延期後、原則無観客の中で開催

③ **その他社会状況の変化：**

- ▶ 人口減少・高齢化の進行
- ▶ 地域間格差の広がり
- ▶ DXなど急速な技術革新
- ▶ ライフスタイルの変化
- ▶ 持続可能な社会や共生社会への移行



こうした出来事等を通じて、改めて確認された

- ・「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる本質的な『**スポーツそのものが有する価値**』（Well-being）
- ・スポーツを通じた地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など『**スポーツが社会活性化等に寄与する価値**』

を更に高めるべく、第3期計画では次に掲げる施策を展開

1. 東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策



持続可能な国際競技力の向上

- 東京大会の成果を一過性のものとせず、持続可能な国際競技力を向上させるため、
 - ・ NFの強化戦略プランの実効化を支援
 - ・ アスリート育成パスウェイを構築
 - ・ スポーツ医・科学、情報等による支援を充実
 - ・ 地域の競技力向上を支える体制を構築



共生社会の実現や

多様な主体によるスポーツ参画の促進

- 東京大会による共生社会への理解・関心の高まりと、スポーツの機運向上を契機としたスポーツ参画を促進
- オリパラ教育の知見を活かしたアスリートとの交流活動等を推進



大規模大会の運営ノウハウの継承

- 新型コロナウイルス感染症の影響下という困難な状況の下で、東京大会を実施したノウハウを、スポーツにおけるホスピタリティの向上に向けた取組も含め今後の大規模な国際競技大会の開催運営に継承・活用



地方創生・まちづくり

- 東京大会による地域住民等のスポーツへの関心の高まりを地方創生・まちづくりの取組に活かし、将来にわたって継続・定着
- 国立競技場等スポーツ施設における地域のまちづくりと調和した取組を推進



スポーツを通じた国際交流・協力

- 東京大会に向けて、世界中の人々にスポーツの価値を届けたスポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）事業で培われた官民ネットワークを活用し、更なる国際協力を展開、スポーツSDGsにも貢献（ドーピング防止活動に係る人材・ネットワークの活用等）



スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

- 東京大会でも課題となったアスリート等の心身の安全・安心を脅かす事態に対応するため、
 - ・ 誹謗中傷や性的ハラスメントの防止
 - ・ 熱中症対策の徹底など安全・安心の確保
 - ・ 暴力根絶に向けた相談窓口の一層の周知・活用

2. スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」を支える施策

スポーツを「つくる/はぐくむ」

社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法・ルールを考えて作り出す。

- ◆ **柔軟・適切な手法や仕組みの導入等を通じた、多様な主体が参加できるスポーツの機会創出**
- ◆ **スポーツに取り組む者の自主性・自律性を促す指導ができる質の高いスポーツ指導者の育成**
- ◆ **デジタル技術を活用した新たなスポーツ機会や、新たなビジネスモデルの創出などDXを推進**

スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。

- ◆ **施設・設備整備、プログラム提供、啓発活動により誰もが一緒にスポーツの価値を享受できる、スポーツを通じた共生社会の実現**
- ◆ **スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力による我が国のスポーツ体制の強化**
- ◆ **スポーツ分野の国際協力や魅力の発信**

スポーツに「誰もがアクセスできる」

性別や年齢・障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し、機運を醸成。

- ◆ **住民誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供**
- ◆ **居住地域にかかわらず、全国のアスリートがスポーツ・科学等の支援を受けられるよう地域機関の連携強化**
- ◆ **本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがない継続的なアクセスの確保**

3. 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策

① 多様な主体におけるスポーツの機会創出

地域や学校における子供・若者のスポーツ機会の充実と体力向上、体育の授業の充実、運動活動改革の推進、女性・障害者・働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上 等

④ スポーツの国際交流・協力

国際スポーツ界への意思決定への参画支援、スポーツ産業の国際展開を促進するプラットフォームの検討 等

② スポーツ界におけるDXの推進

先進技術を活用したスポーツ実施のあり方の拡大、デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの創出 等

⑤ スポーツによる健康増進

健康増進に資するスポーツに関する研究の充実・調査研究成果の利用促進、医療・介護や企業・保険者との連携強化 等

⑦ スポーツによる地方創生、まちづくり

武道やアウトドアスポーツ等のスポーツツーリズムの更なる推進など、スポーツによる地方創生、まちづくりの創出の全国での加速化 等

⑩ スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材

民間・大学も含めた地域スポーツ施設の有効活用の促進、地域スポーツコミュニケーションなど地域連携組織の活用、全NFでの人材育成及び活用に関する計画策定を促進、女性のスポーツ指導に精通した指導者養成支援 等

③ 国際競技力の向上

中長期の強化戦略に基づく競技力向上支援システムの確立、地域における競技力向上を支える体制の構築、国・JSPC・地方公共団体が一体となった国民体育大会の開催 等

⑥ スポーツの成長産業化

スタジアム・アリーナ整備の着実な推進、他産業とのオープンイノベーションによる新ビジネスモデルの創出支援 等

⑨ スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化

ガバナンス・コンプライアンスに関する研修等の実施、スポーツ団体の戦略的経営を行う人材の雇用創出を支援 等

⑫ スポーツ・インテグリティの確保

スポーツ団体へのガバナンスコードの普及促進、スポーツ仲裁・調停制度の理解促進等の推進、教育研修や研究活動等を通じたドーピング防止活動の展開 等

⑧ スポーツを通じた共生社会の実現

障害者や女性のスポーツの実施環境の整備、国内外のスポーツ団体の女性役員候補者の登用・育成の支援、意識啓発・情報発信 等

⑪ スポーツを実施する者の安全・安心の確保

暴力や不適切な指導等の根絶に向けた指導者養成・研修の実施、スポーツ安全に係る情報発信・安全対策の促進 等

『感動していただけるスポーツ界』の実現に向けた目標設定

全ての人々が自発的にスポーツに取り組むことで自己実現を図り、スポーツの力で、前向きで活力ある社会と、絆の強い社会を目指す

国民のスポーツ実施率を向上

- ✓ 成人の週1回以上のスポーツ実施率を70%（障害者は40%）
- ✓ 1年に一度以上スポーツを実施する成人の割合を100%に近づける（障害者は70%を目指す）

生涯にわたって運動・スポーツを継続したい子供の増加

- 👉 児童86%⇒90%、生徒82%⇒90%
- 👉 子供の体力の向上（新体力テストの総合評価C以上の児童68%⇒80%、生徒75%⇒85%）

誰もがスポーツに参画でき、共に活動できる社会を実現

- ✓ 体育授業への参加を希望する障害のある児童生徒の見学ゼロを目指した学習プログラム開発
- ✓ スポーツ団体の女性理事の役割を40%

オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会で、過去最高水準の金メダル数、総メダル数、入賞者数、メダル獲得競技数等の実現

オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会で、過去最高水準の金メダル数、総メダル数、入賞者数、メダル獲得競技数等の実現

スポーツを通じて活力ある社会を実現

- ✓ スポーツ市場規模15兆円の達成（2025年まで）
- ✓ スポーツ・健康まちづくりに取り組み地方公共団体の割合15.6%⇒40%

スポーツを通じて世界とつながる

- ✓ ポストSFT事業を通じて世界中の国々の700万人の人々への裨益を目標に事業を推進
- ✓ 国際競技連盟（IF）等役員数37人規模の維持・拡大

国 スポーツ基本計画の推移

第2期スポーツ基本計画 計画期間 (H29年度～H33年度)
第1章 第2期スポーツ基本計画の策定に当たって
スポーツ基本法に基づく第2期スポーツ基本計画は、平成29～34の5年間に於ける、スポーツ立国の実現を目指す上での重要な指針
第2章で計画の理念を「スポーツの価値」として具体化
第3章で施策体系を大括り化し(4つの政策目標)、数値目標を8から20に増加。
第2章 中長期的なスポーツ政策の基本方針
～スポーツが変える。未来を創る。Enjoy Sports、Enjoy Life～
1 スポーツで「人生」が変わる!
スポーツを「する」ことで、スポーツの価値が最大限享受できる。スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことでみんながその価値を享受できる。
スポーツを生活の一部とすることで、人生を楽しく健康で生き生きとしたものにできる。
2 スポーツで「社会」を変える!
スポーツの価値を共有し人々の意識や行動が変わることで、社会の発展に寄与できる。
スポーツは共生社会や健康長寿社会の実現、経済・地域の活性化に貢献できる。
3 スポーツで「世界」とつながる!
スポーツは「多様性を尊重する世界」「持続可能で逆境に強い世界」「クリーンでフェアな世界」の実現に貢献できる。
4 スポーツで「未来」を創る!
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等を好機として、スポーツで人々がつながる国民運動を展開し、オリンピックムーブメントやパラリンピックムーブメントを推進。
本計画期間においては、「スポーツ参画人口」を拡大し、スポーツ界が他分野との連携・協働を進め、「一億総スポーツ社会」を実現する。
第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策
1 スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大とそのための人材育成・場の充実
(1) スポーツ参画人口の拡大
① 若年期から高齢期までライフステージに応じたスポーツ活動の推進
② 学校体育をはじめ子供のスポーツ機会の充実による運動習慣の確保と体力の向上
③ ビジネスパーソン、女性、障害者のスポーツ実施率の向上と、これまでスポーツに関わってこなかった人へのはたらきかけ
(2) スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実
① スポーツに関わる多様な人材の育成と活躍の場の確保
② 総合型地域スポーツクラブの質的充実
③ スポーツ施設やオープンスペース等のスポーツに親しむ場の確保
④ 大学スポーツの振興
2 スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現
(1) スポーツを通じた共生社会等の実現
① 障害者スポーツの振興等
② スポーツを通じた健康増進
③ スポーツを通じた女性の活躍促進
(2) スポーツを通じた経済・地域の活性化
① スポーツの成長産業化
② スポーツを通じた地域活性化
(3) スポーツを通じた国際社会の調和ある発展

第3期スポーツ基本計画 計画期間 (R4年度～R8年度)
第1部 我が国における今後のスポーツ施策の方向性
第1章 社会変化の中で改めて捉える「スポーツの価値」
1. 第2期計画の総括的な評価
(1) スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と、そのための人材育成・場の充実
(2) スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現
(3) 国際競技力の向上に向けた協力で持続可能な人材育成や環境整備
(4) クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上
2. スポーツ基本計画における「スポーツ」の捉え方
3. 新型コロナウイルス感染症の影響と東京大会の開催を通じて再確認された「スポーツの価値」
第2章 中長期的なスポーツ政策の基本方針と第3期計画における「新たな視点」
下記の基本方針は、第3期計画においても踏襲する。
1 スポーツで「人生」が変わる!
2 スポーツで「社会」を変える!
3 スポーツで「世界」とつながる!
4 スポーツで「未来」を創る!
前計画中に生じた社会変化や出来事を踏まえ、国民が「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すため、3つの「新たな視点」が必要になる。
① スポーツを「つくる／はぐくむ」
② 「あつまり」、スポーツを「ともに」行い、「つながり」を感じる
③ スポーツに「誰もがアクセス」できる。
第2部 今後取り組むべきスポーツ施策と目標
第1章 東京大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に向けて、特に重点的に取り組むべき施策
(1) 東京大会の成果を一過性のものとしにくい持続可能な国際競技力の向上
(2) 安全・安心に大規模大会を開催できる運営ノウハウの継承
(3) 東京大会を契機とした共生社会の実現、多様な主体によるスポーツ参画の推進
(4) 東京大会で高まった地域住民等のスポーツへの関心をいかした地方創生、まちづくり
(5) 東京大会に向けて培われた官民ネットワーク等を活用したスポーツを通じた国際交流・協力
(6) 東京大会の開催時に生じたスポーツに関わる者の心身の安全・安心確保に関する課題を踏まえた取組の実施
第2章 「新たな3つの視点」を支える具体的な施策
1. スポーツを「つくる／はぐくむ」
(1) 多様な主体が参画できるスポーツの機会創出
(2) 自主性・自律性を養う指導ができるスポーツ指導者の育成
(3) スポーツ界におけるDXの導入
2 「あつまり」、スポーツを「ともに」行い、「つながり」を感じる。
(1) スポーツを通じた共生社会の実現
(2) スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力を通じた我が国のスポーツ体制の強化
(3) スポーツを通じた国際交流・協力
3. スポーツに「誰もがアクセス」できる。
(1) 地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供
(2) アスリート育成パスウェイの構築及びスポーツ医・科学、情報等による支援の充実
(3) 本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがないような継続的なアクセスの確保

国 スポーツ基本計画の推移

第2期スポーツ基本計画 計画期間 (H29年度～H33年度)
3 国際競技力の向上に向けた強力で持続可能な人材育成や環境整備
(1) 中長期の強化戦略に基づく競技力強化を支援するシステムの確立
(2) 次世代アスリートを発掘・育成する戦略的な体制等の構築
(3) スポーツ医・科学、技術開発、情報等による多面的で高度な支援の充実
(4) トップアスリート等のニーズに対応できる拠点の充実
4 クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上
(1) コンプライアンスの徹底、スポーツ団体のガバナンスの強化及びスポーツ仲裁等の推進
(2) ドーピング防止活動の推進
第4章 施策の総合的かつ計画的な推進のために必要な事項
・計画の広報活動の推進。SNSをはじめ多様なメディアを活用し国民に直接発信
・大きな潜在力にふさわしいスポーツ関連予算の更なる強化はスポーツ関係者の総意
・予算の効率的・効果的な活用と、スポーツ団体等における公的資金の適正使用を徹底
・スポーツ振興投票制度（toto）等を活用、スポーツに対する寄附や投資を活性化
・計画の進捗状況をスポーツ審議会等において定期的に検証。検証プロセスを公開し、検証結果を次期スポーツ基本計画の策定における改善に反映

第3期スポーツ基本計画 計画期間 (R4年度～R8年度)
第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策
1 多様な主体におけるスポーツの機会創出
(1) 広く国民一般に向けたスポーツを実施する機会の創出
(2) 学校や地域における子供・若者のスポーツ機会の充実と体力の向上
(3) 女性、障害者、働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上
(4) 大学スポーツ振興
2 スポーツ界におけるDXの推進
(1) 先進技術・ビッグデータを活用したスポーツ実施の在り方の拡大
(2) デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの創出
3 国際競技力の向上
(1) 中長期の強化戦略に基づく競技力向上を支援するシステムの確立
(2) アスリート育成パスウェイの構築
(3) スポーツ医・科学、情報等による多面的で高度な支援の充実
(4) 地域における競技力向上を支える体制の構築
4 スポーツの国際交流・協力
(1) 国際スポーツ界への意思決定への参画
(2) スポーツ産業の国際展開
(3) スポーツを通じた国際交流・協力の促進
(4) 国際競技大会の招致・開催に対する支援
(5) オリ・パラ教育の知見・経験等をいかした教育活動の展開
5 スポーツによる健康増進
(1) 健康増進に資するスポーツに関する研究の充実・調査研究成果の利用促進
(2) 医療・介護、民間事業者・保険者との連携を含む、スポーツによる健康増進の促進
6 スポーツの成長産業化
7 スポーツによる地方創生、まちづくり
(1) スポーツによる地方創生、まちづくり
(2) 周辺地域の整備と調和のとれた国立スポーツ施設の民間事業化の推進
8 スポーツを通じた共生社会の実現
(1) 障害者スポーツの推進
(2) スポーツを通じた女性の活躍促進
9 担い手となるスポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化
10 スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」
(1) 地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」の実現
(2) 地域のスポーツ環境の構築
(3) スポーツに関わる人材の育成と活躍の場の確保
11 スポーツを実施する者の安全・安心の確保
(1) スポーツ指導における暴力・虐待等の根絶
(2) アスリートに対する誹謗中傷・写真や動画による性的ハラスメントの防止
(3) スポーツ事故・スポーツ障害の防止
12 スポーツ・インテグリティの確保
(1) スポーツ団体のガバナンス強化・コンプライアンスの徹底
(2) 紛争解決制度の整備
(3) ドーピング防止活動の推進
第4章 施策の総合的かつ計画的な推進のために必要な事項
1 第3期計画における取組・施策の実効性を高めるためのEBPMの推進
2 第3期計画の広報活動の推進
3 第3期計画実施のための財源の確保と効率的・効果的な活用
4 第3期計画を支える様々な主体に期待される役割とそれに対する支援

第3期北海道スポーツ推進計画（素案）の概要

- 【計画の位置づけ】 スポーツ基本法に基づく地方スポーツ推進計画
国の基本計画及び北海道スポーツ推進条例を勘案し策定
- 【計画期間】 令和5（2023）年度から令和9（2027）年度までの5年間
- 【推進体制】 「北海道スポーツみらい会議」と連携し、道民や関係者と相互に協力しながら、
オール北海道で推進

【スポーツを取り巻く環境】

- ◇東京2020・北京2022オリパラ開催
どさんこ選手の活躍は、道民に夢と感動、そして未来への希望を与え、スポーツへの関心を高めた。
- ◇北海道の地域特性
豊かな自然環境を生かし、これまで多くの国際舞台で活躍する選手を数多く輩出
- ◇応援の輪の広がり
本道を本拠地として誕生したプロスポーツチームは地域に根ざし、地域とともに歩み、応援の輪が広がる。
- ◆新型コロナウイルス感染症
様々なスポーツ活動が中止・延期を余儀なくされる一方、スポーツ関係者は感染症対策を講じ、人々や社会を勇気づける取組、日常を取り戻す取組を続けてきた。
- ◆北海道の総人口の減少
北海道の総人口は、1997年をピークに減少に転じ、現在も全国を上回るスピードで減少
→ スポーツ参画人口減少の懸念
- ◆運動部活動のあり方改革
本道の将来を担う子ども達のスポーツに親しむ機会や環境の維持・確保が課題

「北海道の
潜在力」

【スポーツの捉え方・意義と役割】

■スポーツとは

- 心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他精神の涵養等のために個人または集団で行われる
運動競技その他の身体的活動
- スポーツは、様々なかたちでの「自発的」な参画を通じて
「楽しさ」や「喜び」に本質を持つもの

■スポーツの意義や役割

- 「する」 ～健康やいきがいをもたらす
- 「みる」 ～感動、楽しさ、活力を与える
- 「ささえる」 ～地域への一体感を醸成する
- 「しる」 ～様々な効果への理解、意欲や自主性を育む

「つながる」
人と人との
つながりを
深める

「スポーツの持つ力」

【めざす姿・基本方針】

新型コロナの影響・北海道の人口減少など、スポーツを取り巻く環境や社会状況が大きく変動していく中において、

「**スポーツの持つ力**」を最大限活用し、「**北海道の潜在力**」を発揮しながら、**スポーツを通じた将来にわたる持続可能な社会の実現**に寄与していくことをめざす。

基本方針 ～施策の5つの柱～

- 1 スポーツ参画人口の拡大とライフステージに応じたスポーツのあるくらしの充実
- 2 北海道ならではの特色を生かしたスポーツによる地域活性化と共生社会の実現
- 3 どさんこ選手の国際競技力の維持・向上
- 4 スポーツの安全・安心の確保とささえる環境づくり

5 オリパラ
競技大会の
スポーツ・
レガシーの
継承・発展

「スポーツの
持つ力」



「北海道の
潜在力」

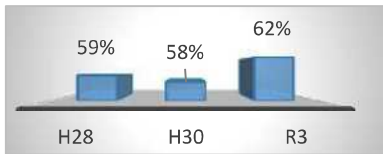
めざす姿 : 将来にわたる持続可能な社会の実現

【今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策】

1 スポーツ参画人口の拡大とライフステージに応じたスポーツのあるくらしの充実

する・みる・ささえるといった多様な形でのスポーツ参画人口の拡大を図るとともに、全ての道民が生涯にわたり、あらゆる場面において、スポーツに親しむことができる環境づくりをめざす。

- (1) 様々なライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- (2) 子どもの心身の健全な発達と体力向上のためのスポーツ機会の充実
- (3) スポーツに親しむ環境の充実
- (4) スポーツの観戦・応援の気運の醸成



本道の成人の週1回以上のスポーツ実施率

～今後の取組の方向性～

- オリンピアンやプロチーム等と連携したスポーツ体験機会の提供
- 地域住民が主体的に運営する総合型地域スポーツクラブの設置促進と質的充実
- 市町村・教育機関・スポーツ団体等と連携し、スポーツの意義・役割等を含めスポーツへの参画を啓発。多様な主体が行う気運醸成に関する協働の取組を促進 等

～目標～

- 本道の成人の週1回以上スポーツ実施率の増加 70%
- 本道全ての市町村に総合型地域スポーツクラブを設置 等

2 北海道ならではの特色を生かしたスポーツによる地域活性化と共生社会の実現

北海道の恵まれた自然環境等を生かしながら、スポーツを通じた地域間・国際交流などによる地域の活性化を図るとともに、障がいや性別その他の事情に関わらず自主的・積極的にスポーツに参加でき、ささえあうことができる社会の実現をめざす。

- (1) 北海道ならではの特色を生かしたスポーツによる地域活性化
- (2) スポーツの成長産業化
- (3) スポーツでつくる優しい共生社会

北海道	全国
4.3%	5.7%

これまで過去1度でもパラスポーツ（車いすテニスやポッチャ等）を体験したことがある者の割合（R3スポーツ世論調査）

～今後の取組の方向性～

- 国際的・全国的な規模のスポーツ競技会、スポーツ合宿の誘致促進
- 地域スポーツコミッションの設立促進
- スタジアムを核としたまちづくりへの協力と食や観光等の魅力発信
- 障がい者スポーツ体験等による理解促進と多様な主体による支援の輪の拡大
- 障がい者スポーツ関係団体の活性化と相互連携の促進 等

～目標～

- 障がい者スポーツを体験したことがある者の割合 20% 等

3 どさんこ選手の国際競技力の維持・向上

国際的または全国的な規模のスポーツの競技会において優秀な成績を収めることができるよう、選手の育成、指導者の養成、人材の発掘等を行い、本道の競技力の維持・向上をめざす。

- (1) 競技力向上に向けたどさんこ選手の強化と指導者の充実
- (2) 世界に羽ばたく次世代アスリートのすそ野拡大と発掘・育成
- (3) 地域間・国際交流機会の拡大による競技力の向上
- (4) ウィンタースポーツの振興と競技力向上

東京大会：出場者29人、メダル7個（金2）
北京大会：出場者60人、メダル8個（金2）

～今後の取組の方向性～

- 北海道が冬季競技の拠点となるよう、冬季版H P S C（ハイパフォーマンススポーツセンター）の道内設置の働きかけ
- ジュニア期からの将来有望な選手の発掘・育成
- 女性アスリートや多様な性のあり方に関する理解促進 等

～目標～

- 夏季・冬季それぞれのオリパラ競技大会において、過去最高水準の出場者数、メダル獲得者数、金メダル獲得数、メダル総獲得数の実現

4 スポーツの安全・安心の確保とささえる環境づくり

体罰や暴力の根絶と事故防止等スポーツの安全・安心の確保を図るとともに、ボランティア活動の参加拡大や選手のキャリアを生かすことができる社会の形成など、ささえる環境づくりをめざす。

- (1) スポーツの安全・安心確保
- (2) スポーツボランティアの育成
- (3) アスリートのセカンドキャリアの形成

～今後の取組の方向性～

- 競技団体のガバナンスコードの策定・公表の促進
- セカンドキャリア形成に向けた引退選手の活躍機会の拡充 等

5 オリパラ競技大会のスポーツ・レガシーの継承・発展

東京・北京冬季大会開催により高まった気運を一過性のものとせず、取組を継承・発展させていくことをめざす。

北海道 スポーツ推進計画の推移

第2期北海道スポーツ推進計画	
計画期間 平成30年度～平成34年度	
基本理念 スポーツ王国北海道 ～「スポーツの風」で未来をひらく～	
基本目標1～5	
基本方向	
施策項目	
第2章 めざす姿と基本方針、5つの柱	
1 スポーツを取り巻く背景と基本方針	
<p>【背景】 ○ラグビーワールドカップ2019 や東京2020 オリパラなどのスポーツのビッグイベント開催を契機に、スポーツを取り巻く情勢やスポーツの価値も変化してきています。 ○東京2020 オリパラは、平成32 年度に開催され、本道においても、大会の成功に向けて、「オリンピック・パラリンピックムーブメント」をしっかりと捉え、大会後には、活力ある「スポーツ王国北海道」や共生社会の実現など、北海道らしいレガシーの創出をめざします。</p> <p>【基本方針】 ○北海道らしく、スポーツを「する」「みる」「ささえる」 ○スポーツの価値で、北海道に好循環(ひと、もの、げんき)を生み出す ○スポーツで北海道と世界をむすぶ ○東京2020 オリパラの好機をつかみ、「その先の、道へ。」つなぐ</p>	
2 計画策定における5つの柱	
<ul style="list-style-type: none"> ・柱1 スポーツで変わる北海道民 ・柱2 スポーツで変える地域・経済・共生社会 ・柱3 「どさんこ選手」の国際競技力の向上 ・柱4 スポーツを通じた人づくり ・柱5 東京2020 オリパラの開催、札幌冬季オリパラによる北海道レガシーの創出 	
3 めざす姿	
スポーツの主役は道民であり、スポーツを実際に「する」、競技大会やプロスポーツを「みる」、ボランティアやサポーターとしてスポーツを「ささえる」、スポーツ参画人口の拡大を図ります。	
第3章 5つの柱の具体的方策	
柱1 スポーツで変わる北海道民	
1 様々な世代のライフステージに応じたスポーツ活動の推進	
2 幼少期からのスポーツ機会の充実と子どもの体力向上	
3 スポーツに親しむ場の確保	
4 スポーツをみる・ささえる応援文化の構築	
柱2 スポーツで変える地域・経済・共生社会	
1 スポーツによる地域の活性化	

第3期北海道スポーツ推進計画(素案)	
計画期間 令和5年度～令和9年度	
基本理念 未定	
基本目標1～5	
基本方向	
施策項目	
第2章 めざす姿と基本方針	
1 スポーツを取り巻く環境	
<p>○令和2(2020)年に入り、世界的な規模で新型コロナウイルス感染症の拡大が急速に進み、様々なスポーツ活動は中止・延期を余儀なくされ、スポーツに親しむ機会が失われました。 ○しかし、本道のスポーツ関係者は、こうした状況を打開すべく、感染症対策を徹底しながら、人々や社会を勇気づける取組、日常を取り戻す取組を続けてきました。 ○このような中、東京オリパラ大会や、翌年に開催された北京冬季オリパラ大会では、世界中から集まったトップアスリートによる熱戦と、本道ゆかりの選手が活躍する様子が報じられ、道民に夢と感動、そして未来への希望を与えるとともに、スポーツへの関心を高めました。 ○また、北海道を本拠地として誕生したプロスポーツチームは地域に根差し、地域とともに歩み、子どもから高齢者まで幅広い世代が試合を観戦し、ボランティアとしてチームを支えるなど、応援の輪が広がっています。 ○一方で、北海道の総人口は、平成9(1997)年をピークとして減少に転じ、少子・高齢化が進展しており、これに伴い、スポーツ関係者も減少し、将来的に、本道のスポーツ参画人口の減少や競技水準の低下などが懸念されます。 ○加えて、国では、学校の働き方改革として、学校運動部活動から地域スポーツ活動への移行に関する検討が進められており、今後、本道の未来を担う子ども達が、スポーツに継続して親しむことができる機会・環境の維持・確保が大きな課題となっています。</p>	
2 基本方針	
<p>【スポーツの意義と役割】 ○スポーツを「する」ことで、体を楽しさや喜び、健康増進や生きがいをもたらす、「みる」ことで、選手の活躍する姿を通して感動と応援する楽しさ、さらには、活力を人々に与え、「ささえる」ことで、スポーツをする人と共に喜びや達成感、地域への一体感を醸成し、「しる」ことでスポーツの様々な効果への理解と、意欲や自主性を育みます。 ○このスポーツとの「する」、「みる」、「ささえる」、「しる」といった多様ななかかわり方を通じて、これらが相互に「つながる」ことにより好循環が生まれ、さらには、人と人とのつながりを深めることができます。 ○このようなスポーツの持つ力を最大限に活用し、あらゆる場面において、生涯にわたり、誰もが、それぞれの体力や年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、目的に応じスポーツに親しみ、ひいては社会に参画することができる環境づくりを促進していくことが重要です。</p>	

北海道 スポーツ推進計画の推移

第2期北海道スポーツ推進計画
計画期間 平成30年度～平成34年度
基本理念 スポーツ王国北海道 ～「スポーツの風」で未来をひらく～
基本目標1～5
基本方向
施策項目
2 スポーツの成長産業化
柱3「どさんこ選手」の国際競技力の向上
1 競技力向上に向けたアスリート強化、指導者の充実
2 世界に羽ばたく次世代アスリートの発掘・育成
3 国内外からのスポーツ合宿の誘致促進や海外アスリートとの交流機会の拡大
4 ウィンタースポーツの競技力向上
柱4 スポーツを通じた人づくり
1 スポーツによる人間力の形成
2 スポーツ人材の働く環境づくり
3 スポーツボランティアの普及促進
4 大学との連携によるスポーツ人材の養成
柱5 東京2020 オリパラの開催、札幌冬季オリパラによる北海道レガシーの創出
1 東京2020 オリパラ開催による好機の活用
2 札幌冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成

第3期北海道スポーツ推進計画(素案)
計画期間 令和5年度～令和9年度
基本理念 未定
基本目標1～5
基本方向
施策項目
【基本方針】 ○ スポーツ参画人口の拡大とライフステージに応じたスポーツのある暮らしの充実 ○ 北海道ならではの特色を生かしたスポーツによる地域活性化と共生社会の実現 ○ どさんこ選手の国際競技力の維持・向上 ○ スポーツの安全・安心の確保とささえる環境づくり ○ オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツ・レガシーの継承・発展
3 めざす姿
新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためのスポーツ活動の制限や、少子高齢化の進展などによる将来のスポーツ参画人口の減少への懸念など、スポーツを取り巻く環境や社会状況が大きく変動していく中において、「スポーツの持つ力」を最大限活用し、「北海道の潜在力」を発揮しながら、スポーツを通じた将来にわたる持続可能な社会の実現に寄与していくことをめざします。
第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策
1 スポーツ参画人口の拡大とライフステージに応じたスポーツのある暮らしの充実
1 様々な世代のライフステージに応じたスポーツ活動の推進
2 子どもの心身の健全な発達と体力向上のためのスポーツの機会の充実
3 スポーツに親しむ環境の充実
4 スポーツの観戦・応援の気運の醸成
2 北海道ならではの特色を生かしたスポーツによる地域活性化と共生社会の実現
1 北海道ならではの特色を生かしたスポーツによる地域活性化
2 スポーツの成長産業化
3 スポーツでつくる優しい共生社会
3 どさんこ選手の国際競技力の維持・向上
1 競技力向上に向けたどさんこ選手の強化と指導者の充実
2 世界に羽ばたく次世代アスリートのすそ野拡大と発掘・育成
3 地域間・国際交流機会の拡大による競技力の向上
4 ウィンタースポーツの振興と競技力向上
4 スポーツの安全・安心の確保とささえる環境づくり
1 スポーツの安全・安心の確保
2 スポーツボランティアの育成
3 アスリートのセカンドキャリアの形成
5 オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツ・レガシーの継承・発展

令和3年度江別市青少年スポーツ賞・スポーツ奨励賞・教育委員会賞について
 青少年文化賞・スポーツ賞等候補者選考項目基準

区 分	文化賞・スポーツ賞	文化奨励賞 スポーツ奨励賞	教育委員会賞 (文化・スポーツ)
成績関係	基本的には結果主義 (成績主義)。	結果とともに、今後の活躍に対する期待も 含む。	
成績	・全国大会で3位以内 ・通算2年以上入賞 ・全国記録の更新 ・前各号に相当する場 合	・全道規模の大会で優勝 ・全道記録の更新 ・前各号に相当する場合	全道規模の大会等で2 位・3位
3位規定	複数3位も対象	……………	複数3位も対象
入賞定義	各大会の入賞取扱基 準尊重 (賞状等が出ている)	……………	
競技会内容	最高賞であるので、 レベル、参加数等を 吟味する。	レベル、参加数については、推薦団体の判断に よる。	
推薦主義	学校推薦(市内小学校～大学)、所属団体等推薦(文化協会、体育協会 等)、教育委員会推薦(所属団体等が無い場合)		
受賞者決定	庁議の意見を聴いて 市長が決定する。	市長が決定する。	教育長が決定する。
年齢等要件	小学生以上19歳未満(大学、短大、専門学校等 の18歳は除く) ※文化賞は24歳まで	小学生・中学生 ※文化部門は、高校生 まで	
団体と個人	団体の成績による個人表彰は行わない。(通算年度事例等) ※団体は、あくまでも団体表彰のみで、所属する個人は表彰の対象とし ない。 ※但し、個人の能力により国体等で北海道選抜チーム等に選出された場 合で、該当する成績を収めた場合は対象とする。		
対象期間	原則、1月1日～12月31日(通算の場合は前3年まで) ※なお、推薦期限までに対象となり得る事績があった場合については、相談に応 ずるものとする。		
表彰日程	毎年2月に表彰する。(事情によっては随時表彰する)		
共通要件	1)江別市に在住する者。 2)江別市に通学、通勤で、江別市に主たる活動場所を有する者。 3)江別市に在住又は通勤、通学する者で構成され、江別市内に主たる 活動場所を有する団体等。 4)個人にあつては、同一部門の再表彰は行わない。		

令和4年度青少年スポーツ賞・スポーツ奨励賞・教育委員会賞について

令和4年度江別市青少年スポーツ賞受賞者一覧(3件:2個人、1団体)

対象:全国規模のスポーツ大会などで3位以内または通算2年以上入賞、全国記録の更新

区分	No.	受賞者氏名	学校学年	ジャンル	事 績 の 内 容 < >は開催地	成 績
個人	1	たかはし きづな 高橋 絆心 <スノーボード>	江別第二中学校3年	スノーボード	2022 TOYO TIRES FREERIDE MAIKO FJT1 U18 SNOWBOARD WOMEN <新潟県>	第1位
	2	かわしま はると 川島 晴登 <ダブルダッチ>	大麻中学校1年	ダブルダッチ	U-15 1on1 DOUBLE DUTCH BATTLE freely2022 JAPAN FINAL <埼玉県>	準優勝
団体	1	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 男子ソフトテニス部		ソフトテニス	令和4年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技大会 令和4年度全日本高等学校ソフトテニス選手権大会 男子団体戦 <愛媛県>	第3位

令和4年度江別市青少年スポーツ奨励賞受賞者一覧(19件:6個人、13団体)

対象:全道規模のスポーツ大会などで優勝、全道記録の更新

区分	No.	受賞者氏名	学校学年	ジャンル	事 績 の 内 容 < >は開催地	成 績
個人	1	やまだ きき 山田 桜生	とわの森三愛高等学校3年	バドミントン	令和4年度全道高等学校体育大会第74回北海道高等学校バドミントン選手権大会 個人対抗女子ダブルス <釧路市>	優勝
	2	ごとう りりこ 後藤 李々子	とわの森三愛高等学校3年	バドミントン	第54回北海道高等学校新人バドミントン大会兼第50回全国高等学校選抜バドミントン大会南北海道予選会 女子ダブルス <函館市>	優勝
	3	やまや くるみ 山家 くるみ	とわの森三愛高等学校2年	バドミントン	令和4年度全道高等学校体育大会第74回北海道高等学校バドミントン選手権大会 個人対抗女子ダブルス <釧路市>	優勝
	4	たけもと たいげ 橋本 大輔	とわの森三愛高等学校2年	体 操	第37回北海道高等学校体操競技・新体操新人大会兼令和4年度全国高等学校体操競技・新体操選抜大会北海道予選会 体操競技男子一部 個人総合 <江別市>	第1位
	5	たかまつ こほ 高松 杏羽	大麻中学校3年	陸 上	第24回北海道ジュニア陸上競技選手権大会 女子走高跳 <千歳市>	優勝
	6	おつが しほり 大塚 しほり	大麻泉小学校4年	ソフトテニス	第19回北海道小学生秋季ソフトテニス選手権大会兼第22回全国小学生ソフトテニス大会予選会 4年生以下女子の部 <苫小牧市>	優勝
団体	1	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 バドミントン部		バドミントン	令和4年度全道高等学校体育大会第74回北海道高等学校バドミントン選手権大会 学校対抗女子団体 <釧路市>	優勝
	2	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 女子ソフトテニス部		ソフトテニス	2021年度第51回北海道高等学校新人戦ソフトテニス選手権大会兼第47回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会北海道予選会 女子団体 <札幌市>	優勝
	3	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 体操競技部 女子		体 操	令和4年度全道高等学校体育大会第75回北海道高等学校体操競技・新体操選手権大会北海道予選会体操競技一部女子 団体総合 <江別市>	第1位
	4	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 ソフトボール部		ソフトボール	第58回北海道ソフトボール選手権大会兼第41回北海道高等学校ソフトボール大会兼第41回全国高等学校ソフトボール選抜大会北海道予選会 <石狩市>	第1位
	5	立命館慶祥高等学校 ラグビー部		ラグビーフットボール	令和4年度全道高等学校体育大会第75回北海道高等学校ラグビーフットボール南・北選手権大会兼第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会北海道予選会 <旭川市>	優勝

区分	No.	受賞者団体名	ジャンル	事 績 の 内 容 < >は開催地	成 績
団 体	6	立命館慶祥中学校 ラグビー部	ラグビーフットボール	第41回北海道ラグビーフットボール中学校大会 <江別市>	優勝
	7	江別市立中央中学校 女子卓球部	卓 球	第38回道新杯北海道中学選抜卓球大会 女子団体 <札幌市>	優勝
	8	江東ベルファスト	ドッジボール	北海道ドッジボール選手権大会2022 小学生高学年部門 ファイターの部 <江別市>	優勝
	9	元江別レッド・ソルジャー	ドッジボール	第31回春の全国小学生ドッジボール選手権全国 予選北海道大会 全国予選部門 <江別市>	優勝
	10	リトル ソニック LITTLE SONIC	ドッジボール	北海道ドッジボール選手権大会2022 小学生低学年部門 <江別市>	優勝
	11	上江別Jr. FCサッカースポーツ少年団	サッカー	第19回岩内町長杯全道少年U-10サッカー南北 北海道大会 <岩内町>	優勝
	12	北翔大学スポルクラブ	体 操	第45回北海道ジュニア体操競技選手権大会 体操競技女子団体Cクラス <旭川市>	第1位
	13	北海道新体操クラブ江別	新体操	第45回北海道ジュニア新体操選手権大会 新体操男子団体 <釧路市>	第1位

令和4年度江別市教育委員会賞(スポーツ)受賞者一覧(24件:13個人、11団体)
 対象:全道規模のスポーツ大会などで2位・3位

区分	No.	受賞者氏名	学校学年	ジャンル	事 績 の 内 容 < > は開催地	成 績
個人	1	しのほら みずき 篠原 泉輝	大麻東中学校2年	バドミントン	第41回全日本ジュニアバドミントン選手権大会 ジュニア新人の部南北北海道予選会 南北北海道男子シングルス <函館市>	準優勝
	2	とよた まら 豊田 奏空	東野幌小学校5年	バドミントン	なの花薬局カップ第41回北海道小学生バドミントン大会 5年生以下女子ダブルス <札幌市>	準優勝
	3	おおたけ ゆいは 大竹 結羽	文京台小学校5年	バドミントン	なの花薬局カップ第41回北海道小学生バドミントン大会 5年生以下女子ダブルス <札幌市>	準優勝
	4	はりがや ゆうすけ 針ヶ谷 悠介	東野幌小学校5年	バドミントン	なの花薬局カップ第41回北海道小学生バドミントン大会 5年生以下男子ダブルス <札幌市>	第3位
	5	おのの 龍紅 小野沢 龍紅	大麻泉小学校5年	バドミントン	なの花薬局カップ第41回北海道小学生バドミントン大会 5年生以下男子ダブルス <札幌市>	第3位
	6	みのや 佳鈴 美ノ谷 佳鈴	江別第一中学校2年	スキージャンプ	令和3年度北海道中学校体育大会第54回北海道中学校スキー大会 スペシャルジャンプ競技 <土別市>	第3位
	7	はると りく 春田 陸玖	中央中学校2年	陸上	第29回北海道中学校新人陸上競技大会 男子走幅跳 <函館市>	第2位
	8	わかみや 伯空 若宮 伯空	大麻東小学校5年	新体操	第29回北海道新体操大会 新体操小学男子一種目の部 <江別市>	第2位
	9	たなか のりくに 田中 昇国	中央小学校5年	新体操	第45回北海道ジュニア新体操選手権大会 新体操男子Bクラス個人総合 <釧路市>	第2位
	10	きむら きあや 木村 咲絢	東野幌小学校5年	ソフトテニス	第19回北海道小学生秋季ソフトテニス選手権大会兼第22回全国小学生ソフトテニス大会予選会 5年生女子の部 <苫小牧市>	第3位
	11	しまだ あおい 嶋田 葵	いずみ野小学校4年	ソフトテニス	第19回北海道小学生秋季ソフトテニス選手権大会兼第22回全国小学生ソフトテニス大会予選会 4年生以下女子の部 <苫小牧市>	第3位
	12	きくち 悠陽 菊地 悠陽	文京台小学校5年	ダブルダッチ	U-15 1on1 DOUBLE DUTCH BATTLE freely2022 NORTH ROUND アドバンス部門 <札幌市>	第3位
	13	すぎやま 碧飛 杉山 碧飛	対雁小学校3年	少林寺拳法	第42回少林寺拳法北海道大会2022年少林寺拳法全国大会in大阪 北海道地区選考会 規定単独演武 小学生6級~4級の部 <千歳市>	優秀賞 (第2位)
団体	1	江別市立江別第一中学校 女子ソフトテニス部		ソフトテニス	令和4年度北海道中学校体育大会第43回北海道中学校ソフトテニス大会 女子団体 <北見市>	第3位
	2	江別市立中央中学校 女子バドミントン部		バドミントン	令和4年度北海道中学校体育大会第53回北海道中学校バドミントン大会 女子団体 <旭川市>	第3位
	3	江別市立中央中学校 男子バレーボール部		バレーボール	令和4年度北海道中学校体育大会第52回北海道中学校バレーボール大会 <伊達市>	第3位
	4	江別市立中央中学校 女子バレーボール部		バレーボール	令和4年度北海道中学校体育大会第52回北海道中学校バレーボール大会 <伊達市>	第3位
	5	江別中央ジュニアバレーボールスポーツ少年団「江別中央ガッツ」		バレーボール	第42回全日本バレーボール小学生大会南北北海道大会 男子の部 <小樽市>	準優勝

区分	No.	受賞者団体名	ジャンル	事 績 の 内 容 < >は開催地	成 績
団 体	6	江別中央ジュニアバレーボールスポーツ少年団 「江別中央ジャンプ」	バレーボール	第42回全日本バレーボール小学生大会 北海道大会 女子の部 <小樽市>	準優勝
	7	神風クレインズ	ドッジボール	北海道ドッジボール選手権大会2022 小学生高学年部門 ファイターの部 <江別市>	準優勝
	8	ソニック SONIC	ドッジボール	北海道ドッジボール選手権大会2022 小学生高学年部門 ファイターの部 <江別市>	第3位
	9	シーク アールジー Sieg R.Gクラブ	新体操	第61回北海道新体操選手権大会 新体操女子団体 ジュニアの部 <江別市>	第2位
	10	シーク アールジー Sieg R.Gクラブ Dチーム	新体操	第29回北海道新体操大会 新体操女子 団体徒 手 小・中学生の部 <江別市>	第3位
	11	江別バスケットボールスポーツ少年団	バスケットボール	第48回北海道ミニバスケットボール大会兼第54 回全国ミニバスケットボール北海道予選会 男子 の部 <江別市>	第3位

令和5年度スポーツ関係予算(案)主要事業について

(千円)

担当部署	事務事業名	主な内容	令和4年度 当初予算額	令和5年度 当初予算(案)
スポーツ課 スポーツ係	学校プール開放事業	夏休み期間中、小学校プールを児童に開放	3,643	3,913
	学校体育館土曜開放事業	学校休業日の土曜日、小学校体育館を地域の児童に開放	1,165	1,160
	社会人体育団体学校開放事業	学校体育館・グラウンドの開放	263	263
	体育施設整備更新事業	体育施設の維持補修	7,036	7,100
	市民体育館改修整備事業	市民体育館給水設備改修工事、柔剣道室床改修工事	54,000	12,600
	屋外体育施設管理運営事業	特設スケートリンクの管理経費	4,776	4,872
	屋内体育施設管理運営事業	市民体育館、大麻体育館、青年センター、東野幌体育館指定管理料	209,718	213,149
	スポーツ少年団補助金	スポーツ少年団の事業に対する補助	1,815	1,895
	あけぼのパークゴルフ場管理運営事業	あけぼのパークゴルフ場指定管理料	12,228	14,869
	江別市スポーツ協会補助金	江別市スポーツ協会の事業に対する補助	1,462	1,562
	森林キャンプ場管理運営事業	森林キャンプ場指定管理料	7,782	7,652
	地域スポーツ活動活性化促進事業	スポーツ推進委員が行う地域への軽スポーツ出前講座	269	226
スポーツ大会等振興補助事業	各スポーツ大会開催等スポーツ振興事業補助	40,842	40,989	
スポーツ課 (合宿誘致・交流)	スポーツ合宿誘致推進事業	道外からのスポーツ合宿団体に対する送迎サービス、特産品提供、野幌総合運動公園等の施設使用料補助などの支援	2,491	860
	特別支援学校フットサル大会開催支援事業	道内及び道外・海外の特別支援学校が参加するフットサル大会の支援	737	380
推進担当 高校総体課	高校総体北海道大会開催事業	令和5年度全国高校総体における江別市開催競技の準備と大会運営に係る経費	2,081	34,238